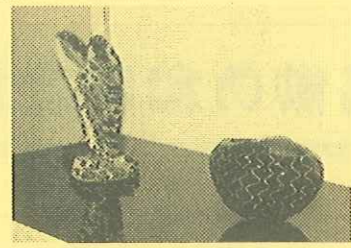


**支所玄関付近がギャラリーに**

十一月下旬まで、ふれあいサロン『なごみ』が営業していた支所玄関付近が、本格的なギャラリーに変身しています。



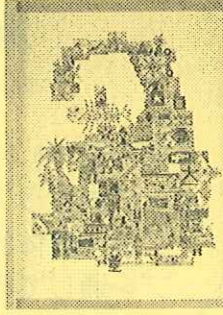
内田守さんの作品

小中学生、和田在住の芸術家の方々、地区で活動するサークルの皆さんにご協力をお願いし、三ヶ月まで作品を展示させて頂きます。かわい子子どもたちの作品、思わずうなるプロの芸術作品、サークル活動の素敵な作品が展示されています。残念ながら、今はお茶やコーヒーは出ませんが、是非一度鑑賞にいらつしゃってください。写真は、展示準備の様子と、ガラス作家 内田守さん、同 木越あいさん、ポップアート作家 吉田友久さん、手作り甲冑 石黒弘明さんの作品です。簡単に、作者の紹介をします。

**石黒弘明さん**

白渚在住。南房総高次脳機能障害家族会世話人を務める。手作り甲冑は、電動工具類は用いず、手ではさみを扱い厚紙を切ったり、布をのりで貼ったりする。それを記憶障害等の方々へのリハビリテーションの手法として用いている。出来上がった作品は、各地の文化祭で展示したり、里見祭りなど着用デモンストラーションをしたりしている。

**吉田友久さんの作品**



柴に移住して八年。自工房で精力的に商品制作をする傍ら、多くの都市で作品展を開催。氏固有の美をガラス立体表現に託し、世に問い続けている。一方、和田地区の豊かな自然を愛し、環境保全への思いと共に、地区民が安心して暮らせる地域づくり、積極的に参加している。

**内田守さん**



木越あいさんの作品

柴に移住して十三年。海外でサーフィンを楽しみながら働く中、地元での自由な絵画表現に出会い魅せられる。自らもスケッチやデッサンを始め、愛する和田暮らしの心象の表現手段を、ポップアートに求める。子ども達とのワークショップの開催、近隣市町での個展などを通して、更なる自己表現の向上を求めている。和田の地域づくりにも積極的に参加している。

**吉田友久さん**

柴に移住して十三年。海外でサーフィンを楽しみながら働く中、地元での自由な絵画表現に出会い魅せられる。自らもスケッチやデッサンを始め、愛する和田暮らしの心象の表現手段を、ポップアートに求める。子ども達とのワークショップの開催、近隣市町での個展などを通して、更なる自己表現の向上を求めている。和田の地域づくりにも積極的に参加している。



作家の方々自らがギャラリー作りです

**木越あいさん**

東京都在住(内田さんの友人)ということで、協賛出品をして頂く。日本、海外で制作活動をしなが、精力的に展覧会出品、個展の開催等を行う。加えて、版画制作やエッセイの執筆をするなど多彩さを発揮する。自らの日常生活も表現の手段でもあると捉え、更なるオリジナリティーを追求し続けている。

**石黒弘明さんの作品**



お申し出、お問い合わせは、地域づくり支援員まで。TELは表紙下に標記してあります。

**多くの皆さんの出品をお待ちします**

☆サークル出品☆  
レザークラフト すみね会  
和田漆書絵彫肉彫会  
北三原絵手紙教室

ロビー付近のギャラリー化は、和田支所、和田公民館の機能が、現在のコミュニティセンター内に統合・移転することにより実現します。つまり、『さよなら庁舎』という意味も含まれます。支所庁舎の最後の数ヶ月間、地域の皆さんの手できれいに飾って頂けたら、また沢山の皆さんにお訪ね頂けたらと考えます。

**『わだいのすき』って何**

六月の『和田地区地域力創成協議会』の呼びかけに、元気な和田の地域づくりについて考え、活動しようという多くの人が集まりました。八月には、それが『和田の地域づくりを考える会』として発足し、行動する団体『和田の地域づくり協議会』へと発展しようとしています。地域の皆様のご理解やご意見、参加をいただきながら、より多くの皆様と共に元気な(『安心・安全』で『生きがい』や『賑わい』のある)和田地区をつくっていきましょうと考えています。

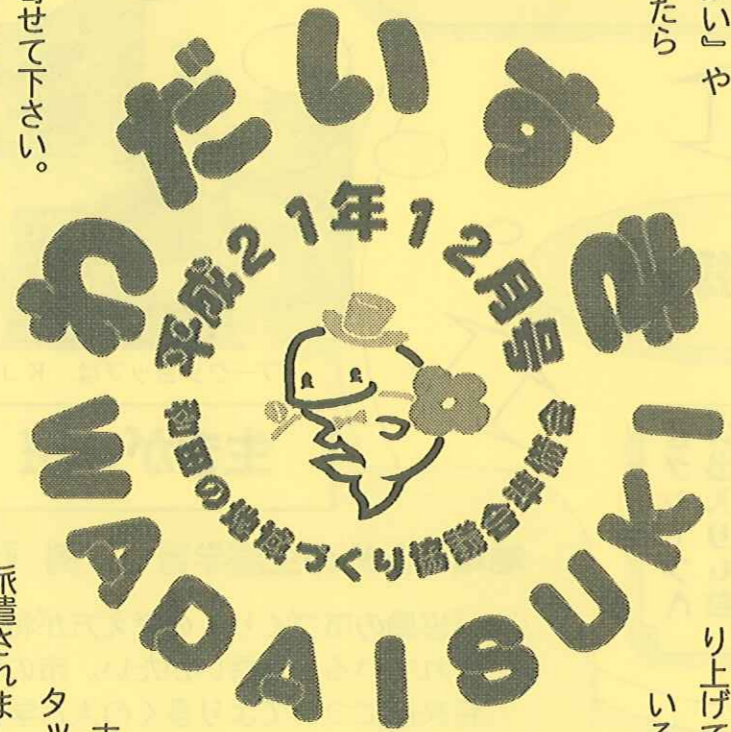


『わだいのすき』は、活動の様子を地域の皆様にお伝えするかわら版です。この名前には、

などの意味を持たせました。どうぞご愛読の上、どんどんお声を寄せて下さい。

**市が掲げる『協働』とは**

今話題の事業仕分けのように、国家財政は大変苦しい状態にあります。国際状況、日本の社会状況が大きな影響を与えているからです。それに伴い、地方公共団体はより深刻な運営状態に陥っています。南房総市もご多分にもれませんが、現在、南房総市には合併特例が適用されていますが、その特典も合併後十五年という期限付きです。



その特典があるうちに、南房総市は組織や事業を見直し、将来にわたって自立していける見通しを立てなければなりません。そのために、積極的に行政改革を進めているところですが、事業や施設・設備の見直し整理、職員の削減は避けて通れません。したがって、これまで行政側が主体で行ってきた事業なども、市民の皆さんの力をお借りし、皆さんと市当局とが協働して創り上げていく必要があります。和田地区で進められている『和田の地域づくりを考える会』、『和田の地域づくり協議会』へ向けた動きも、その取り組みの一つです。『協働』とは、『志に多少の違いはあるが、連携・協力してともに担うこと』です。協働には共感が必須です。

**地域づくり支援員が配置されました**

地域づくり協議会の事務局の仕事など、和田地区の地域づくりを支援する為に、2名のスタッフを千葉自然学校から派遣されました。平常は、和田支所に勤務しています。宜しくお願いします。



川上 香織



田島 和幸

発行者 南房総市・和田の地域づくり協議会準備会  
連絡先 南房総市役所和田支所内  
地域づくり支援員 田島和幸 川上香織  
携帯 080-4188-7103  
支所 0470-47-3111  
FAX 0470-47-4181(支所)

# 協働の和田地域づくりは、こう進んでいます

地域力創成協議会が協働のイメージを提案

21年3月

共に活動する地域住民を募集

21年6月

『和田の地域づくりを考える会』の発足

21年8月

52人のメンバー  
でスタートです



講師 鎌田千葉工大教授

## 第1回会議

8月5日

行政と市民の協働による地域づくりと『地域力創成協議会』『地域づくりを考える会』設置の意味やその具現方法等について、メンバーで共通理解を図りました。

## 第2回会議

9月4日

和田町の良さや課題を見つけるため、少人数グループに分かれてワークショップを行いました。誰もが自分の意見を気軽に言える話し合い方法です。

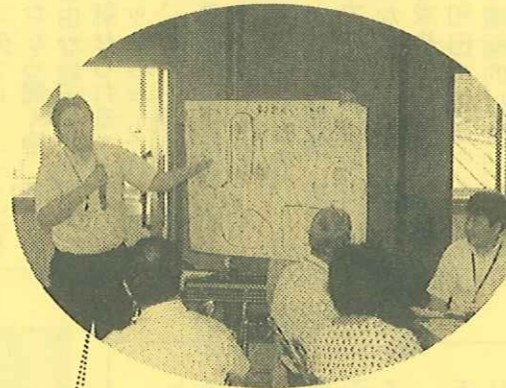
## 第3回会議

10月23日

『生きがい』『安全・安心』『にぎわい』を創り出すにはどうアプローチすればよいのか、グループ毎に具体的な活動例を設定し、ワークショップを通して行動計画作りを行いました。



地域力創成協議会の様子です



合には  
いつでも  
入れます

ワークショップの様子です。代表が話し合いの結果を発表します。

## 安心・安全班

自然災害への対策 例『津波の避難訓練』

- ◇ 近い将来起こると考えられる大地震。特に海岸に近い地域では、津波の被害が心配される。  
元禄大地震の津波のハザードマップを基に何回かのワークショップを行い、避難訓練の実施や避難体制づくりを目指そう。
- ◇ 生きがい班と連携し、生涯学習講座の一環として和田地区民全体に呼びかけよう。  
また、避難体制の確立や訓練を定期的に行うことを通し、地域リーダーの育成や人々のまとまりをつくり出そう。

第3回『考える会』のワークショップは、こんな内容でした



考える会 庄司発起人

中間支援班は、3つの班の活動に関連付けたり、調整したり、全体の活動を広報したりして、協議会の活動がスムーズに行えるよう支援します。  
事務局的な仕事もします。

## 中間支援班



ワークショップは、KJ法を使って行いました

## にぎわい班

人数が多いため2つのグループに分かれました

- ① イベントを繋げ、年間を通したにぎわいづくり
  - ◇ 現在、各団体が行っているイベントや新しく企画するイベントを鎖のように配置し、1年を通じた賑わいをつくり出そう。
  - ◇ イベントの中味を工夫したり、幾つかの団体の共催に結びつけたり、外部発信の諸活動をしたりする中でにぎわいを生みだそう。
- ② 昔料理の掘り起こし 例『赤まぜご飯』
  - ◇ 山側の地域で昔から作られている『マグロの赤まぜご飯』を糸口として和田の昔料理を掘り起こし、にぎわいの場の物販エリアで販売しよう。
  - ◇ 昔料理を復活させるには、高齢者の皆さんの手助けが必要。  
講習会の講師をお願いしたり、実際の調理・販売活動に携わってもらったりすることで、高齢者の皆さんの生きがいづくりに繋げよう。

各グループへの出入りも自由です

そして  
次の段階へ

## 生きがい班

地域のための生涯学習 例『寺子屋』

- ◇ 『協働の市づくり』の考え方が和田地区民に十分理解されているとは言いがたい。市の置かれている状況や将来像についてより多くの人と学習を深めよう。
- ◇ 市の行財政改革の一環として、支所庁舎、公民館分館が整理され、両者の機能を持った施設がコミセン内に設けられる。この施設が、人々に十分な『安心・安全』『生きがい』『にぎわい』を提供する場として機能するにはどうしたらよいかみんなで考え、話し合っていこう。
- ◇ 『生涯学習講座:寺子屋(仮称)』を開催し、学習を通して和田地区民の生きがい活動を充実させよう。

12月2日、『和田の地域づくり協議会』設立に向け、準備会が行われました。これからも何回か行われる予定です。組織や運営の方法などが話し合われています。